

中学校 音楽 部会

部会長名 方城中学校 校長 友松 秀樹

実践者名 添田中学校 教諭 津田祐美子

川崎中学校 教諭 本田 智子

1 研究主題

「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導と評価」

～表現領域における知覚・感受力を高める支援を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

平成19年に一部改正された学校教育法では、義務教育の目標が具体的に示され、さらにその達成に向けて小中学校で育成する学力についても明示された。この学校教育法で示された学校教育で育成する学力は、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「学習意欲」の3つの要素からなる。そして、平成24年度から実施されている新学習指導要領では、この3つの要素を「確かな学力」として位置づけた。

これらは、以前からの学力論争や OECD の PISA 調査の課題を受け、21世紀に生きる子どもたちの教育の充実に向け、「生きる力」の主要な柱として、学力の3つの要素を調和的にはぐくむよう中央教育審議会において要請されたものである。

(2) これまでの音楽教育から

学校教育法の義務教育の目標に「生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸、その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと」とある。これは音楽科の目標である

「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」の基となる目標だが、音楽科における教育の目的として

「音楽を通して生活を明るく豊かにするため」と明示されている。言い換えれば、音楽の学習内容が、現在や将来において自分の生活に生かすためのものということができる。

しかし、これまでの授業を振り返ると、歌い方や演奏の仕方を教師が範唱奏し、生徒はそれを模倣するだけの活動に終始する傾向があった。また、鑑賞では教師の一方的な楽曲解説の後、楽曲を聴かせ、主観的な感想を書いて終わるという授業も多々あった。音楽の諸記号等についても、結果として知識として覚えさせることが目的となっていた。

これらのことから、音楽科における基礎的な知識や技能を確実に身につけさせ、生涯にわたって生活を明るく豊かにする「確かな学力」を身につけさせるために、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことは大変意義深いといえる。

3 主題の意味

(1) 思考力・判断力・表現力等をはぐくむとは

中央教育審議会答申で示された、基礎的・基本的な知識・技能の活用によって思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動であり、具体的には次の内容である。

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
- ②事実を正確に理解し、伝達する。
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり解釈する。
- ④情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する。
- ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

さらに答申では、思考力・判断力・表現力等の基盤となるのは言語の能力であり、学習活動での学習内容を言語化すること、つまり、学習したことを記録・要約・説明・論述するといった言語活動の充実が必要であるとしている。

(2) 思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導と評価とは

音楽科において、思考力・判断力・表現力等をはぐくむために活用される基礎的・基本的な知識・技能は、新学習指導要領で新に示された「共通事項」が知識であり、「各学年の目標および内容」が技能である。

音楽科における思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導とは、[共通事項]イの音楽の要素やそれらの働きを表す用語や記号の理解を支えとしながら、[共通事項]アの音楽の要素や要素同士の関連の知覚と、それらの働きが生み出す特質や雰囲気の感受を通して、歌唱・器楽・創作の表現活動や鑑賞の内容を思考・判断し、それを技能や批評文等によって具現化することである。

さらに、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導と評価とは、音楽表現の創意工夫を通して表現の技能を高めたり、鑑賞の能力を高めるための、知覚・感受力をはぐくむ手立てとその達成の状況を見取るための方法と規準である。

(3) 表現領域における知覚・感受力を高める支援とは

知覚は、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽の要素や要素同士の関連を識別する能力である。これに対し感受は、音楽の要素や要素同士の関連によって生み出される雰囲気や特質を感性によって感じ取る能力である。

知覚力を高める支援とは、楽曲から音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を分析的に知覚させるための、視聴覚教材の活用やわかりやすい説明・助言の工夫等である。感受力を高める支援とは、楽曲の特質や雰囲気を感じ取るための、場の設定や資料の活用、教材の工夫等である。

4 研究の目標

表現領域において、音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導とその達成を見取る適切な評価方法について究明する。

5 研究仮説

表現領域において、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせるために適切な支援を行えば、生徒は主体的に思考・判断し、感じ取ったことや思いを音楽的根拠に基づいて表現できるようになる。また、班や学級全体で交流することによって、自分の考え方をさらに深化させることが

できる。

6 研究の計画（授業計画）

(1) 題材名 混声合唱に親しもう

教材名 混声三部合唱「絆」 山崎朋子 作詞・作曲

(2) 題材の目標

- 合唱の響きや声の表現に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 曲想や作者の思いを生かした、楽曲にふさわしい表現の工夫ができる。(音楽表現の創意工夫)
- 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な発声、発音、呼吸法などの技能を身に付け歌うことができる。(音楽表現の技能)

(3) 題材の指導計画

次	時数	学習活動・内容	評 価 規 準		
			関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	2	主旋律を覚える。 自分のパートの音程・リズムをつかむ。	パートの仲間と協力し、意欲的に練習に取り組む。【観察】		正しい音程・リズムで歌うことができる。【観察・個別チェック】
	1	他パートと合せて歌い、声重なりを感じる。		パートの役割を理解し、バランスによる効果に気づくことができる。【ワークシート】	互いの音や役割を聴き合いながら、自分のパートを正しい音程・リズムで歌うことができる。【観察】
	1	三部合唱する。 詩の内容や曲想から感じ取ったこと、作者の感情、この曲で表現したいことを考える。		詩の内容や曲想から感じ取ったこと、推測した感情を記述することができる。【ワークシート】	全体の響きを感じながら、正しい音程・リズムで歌うことができる。【観察】
2	1	自分たちの合唱と範唱CDを比較聴取し、音楽の構成要素の働きや表現の仕方の違い	表現工夫をする活動に関心を持ち、主体的に取り組む。【発言・観察】		語感を生かした発音発声で歌唱表現することができる。【観察】

	いに気づく。 表現の工夫をする。 ①大切にした言葉 子音、音色、語尾 の処理			
1	②サビ前～サビ部分 強弱、旋律の方向		曲にふさわしい音楽 要素の働かせ方や表 現の仕方を考えるこ とができる。 【ワークシート】	曲にふさわしい強弱 や発音発声で歌唱表 現することができる。 【観察】
1	③終結部 テンポ、強弱と音色 ④その他 学級合唱を仕上げる。		曲にふさわしい音楽 要素の働かせ方や表 現の仕方を考えるこ とができる。 【ワークシート】	曲想や思いを生か し、響きのある声や 曲にふさわしい歌い 方で歌唱表現するこ とができる。【観察】 【実技テスト】

7 指導の実際

(1) 本時の主眼

楽曲のイメージや思いを伝えるために、音楽の構成要素の働かせ方や発声発音を工夫して表現することができる。

(2) 本時の指導観

本教材「絆」は無理のない音域で三部合唱の美しい響きを感じることができ、詩の内容も共感できる。穏やかな中にも力強さを持った美しい旋律、時折り切なさを醸し出す和音進行とサビに向かう高揚感、三声が一体となり胸が熱くなるサビ部分、大切な思いを心の奥深く刻み込むかのような終結部である。

そこで、合唱活動を通して、曲想や作者の意図を感じ取り、自分なりのイメージや思いを表現しようとさせる。さらに、仲間と意見を出し合い、音楽の構成要素の働かせ方や発声発音を工夫して、より深い表現につなげさせたい。

(3) 準備

ワークシート、ホワイトボード（グループ意見交流用）、参考資料「めざせ金賞！」
プリントCDデッキ3台、パート練習用CD、録音機器（またはビデオ）、

(4) 展開

段階	配時	学習活動	教師の支援・援助 *主な評価規準

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">導 入</p>	<p>10: 1. 体をほぐし既習曲を歌う。 2. 本時の学習内容とめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスし、ウォーミングアップすると共に、全員で声を出せる雰囲気をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> めあて 思いが伝わる合唱にするために、サビ部分の表現を工夫しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの活動でまとめたものを提示し、表現への思いを高め、課題を確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 〈曲のイメージや表現したいこと〉 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業の時、今までの思い出している。悲しい。 ・友達との絆の大切さ。優しい。温かい。 ・これからもずっと絆を結びたい。強い決意。 ・始めは静かに、段々気持ちが入り盛り上がる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 〈比較聴取で予想される反応と関連する音楽構成要素・技能〉 <ul style="list-style-type: none"> ・声が小さい。 ・特定の人の声が大きい。(発声、姿勢、口、気持ち) ・ハモっていない。 ・〇〇パートが聞こえない。(音程、バランス、発声) ・歌詞がよく聞こえない。(言葉のまとまり、子音) ・ブツブツ切れる。(フレーズ、ブレス) ・べたーっとしている。(歌い終わりの処理、発声) ・盛り上がりがない。(強弱、旋律線) </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>10: 3. サビ前～サビ部分の表現の工夫を考える。 (1) 自分の考えをワークシートに記入する。 (2) グループで意見交流し、さらにパートとして工夫したいことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜中の強弱記号を生かしながら、記号がついていない部分についても自分なりに記号やしるしを書き入れさせる。 (自己決定の場合) ・どの音に向かってヤマをつくるのか、旋律の動きや歌詞に注目させる。 ・自分と違う意見は、ワークシートに追記させる。 ・ホワイトボードに記入させ、黒板に掲示する。 (共感的人間関係) <p>* 曲にふさわしい音楽要素の働かせ方や表現の仕方を考えることができているか。【ワークシート】</p>

	<p>15 4. パート練習で歌いながら試してみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室左（A）・音楽室後（男）・音楽室右（S）へ移動し、リーダーを中心に練習させる。 ・1番「僕らの～紡いでいく」までの練習を指示し、話し合ったことが表現できるよう歌って試させる。（自己決定の場） ・パート巡視し、練習方法や進め方、技能面のアドバイスを適宜行う。
<p>ま と め</p>	<p>15 5. パート練習の成果を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫後の演奏を聞きあい、評価しあう。 ＊曲想や思いを生かし、曲にふさわしい強弱や発音発声で歌唱表現することができるか。 <p style="text-align: right;">【観察】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 歌詞（語感）や旋律線を生かして強弱を工夫すれば、思いが伝わる合唱表現をすることができる。</p> </div>
	<p>6. 全員で三部合唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートの工夫でよかった点は、全体でも取り入れ 生かすよう投げかける。 ・録音し、次時での表現工夫に生かすことを告げる。

8 研究のまとめ

本題材において、思考力・判断力・表現力をはぐくむために、次のような知覚・感受力を高める支援を行った。

まずはパート練習の仕方に慣れさせ、音取りから合唱にするまでの手順を学ばせた。はじめは教師から指示（練習場所、練習方法、練習のポイント、時間、隊形など）を出す、「活動進行シート」を活用して、徐々にリーダーを中心に自分たちで活動できるようになった。パートの音が取れた段階では、他パートとの音の重なりを感じさせながら、パートの役割とバランスの工夫による効果に気づかせた。2声の重なりを聴き合い意見を出し合う場を設定することで、自分のパート以外の音にも意識が向くようにした。

三部合唱になった後は、聞いている人にどのように伝えるかを意識させ、生徒自身が感じたことを基に、主体的に考え音楽づくりをしていくような活動を仕組んだ。具体的に、①自分の考えを記述する。（自己決定の場）②パートを基盤とした小グループで意見交流し、考えを広げる。（共感的人間関係）③考えた工夫をパートや全体練習で試してみる。（自己決定の場）④成果を評価する。（自己存在感）という流れを取り入れた。合唱活動そのものが「自己存在感」「共感的人間関係」を前提に成立するのだが、この流れで活動することによって、合唱表現を深める学習に粘り強く、より主体的に

取り組めると考える。また、気づいた課題を音楽構成要素や技能と結びつけ工夫させるための手だて（参考資料の活用）、交流した内容を全体に提示する手だて（ホワイトボードやアナリーゼシート）、ワークシートの工夫（自分の考え、友達との意見交流での広がり、表現工夫したことを記入し、学習の足跡がわかりやすく見えるもの）、自分たちの合唱を客観的に評価してよりよい表現につなげていく場の設定と手だての工夫（録音・録画など）を行った。

9 成果と課題

(1) 成果

○パート内をさらに3～4人のグループに分けて話し合い活動をしたため、意欲の低い生徒や音楽的感受が苦手な生徒でも、司会・記録・発表係を分担し、積極的に活動に参加する姿が見られ、全員が意見を出しあうことで、多様な考えが出された。

○知覚したことと感じ取ったことを関連づけてワークシートに記述させることにより、生徒の感受の傾向や受け止めたことの中身、学習したことがどのように理解されているかを把握することができた。

○グループで意見交換をすることにより、他の人が知覚したことや感じ取ったことを認め合うと共に、音楽的感受の幅を広げることができた。

○自分たちの考えを歌って確かめる場の設定も、主体的な活動を促した。ソプラノ・アルトは2パターン、男子は3パターンの表現で歌い、比較して効果を確認した。課題を持つことで集中を切らさず何度も歌ったり、交代で聴きあったりと、自分たちが考えた表現だけに意欲的な活動がなされていた

(2) 課題

○題材全体を振り返って、計画した時間内では難しさがあつた。話し合い活動やパート練習、自分の考えを文章で記入する学習内容が一年生にとってはどれもが初めてだったので、一つ一つ丁寧に活動した分時間を要した。ただ、3年間このような学習活動を続ける事によって、主体的に表現の工夫ができるようになるという手応えは感じられた。

○今回工夫したことをパートで終わらせず、全体に広げ、合唱に生かす必要はあるため、配時や時間数の検討が必要である。

○参考文献

- | | | |
|--------|-------------------|---------------|
| ・文部科学省 | 「中学校学習指導要領解説 音楽編」 | 平成20年 教育芸術社 |
| ・文部科学省 | 「中央教育審議会平成20年答申」 | 平成20年 文部科学省HP |